

ゴールドエンゲートブリッジ、ケールカー、アルカトラス島…、坂と霧が名物のサンフランシスコ市(SF)は、観光、金融、商業に加え、米国調査会社のランキングで1位に輝くほどの「食の都市」であり、全米屈指のLGBTQの街「カストロ地区」を抱えるなど、歴史と多様性も備えた活力ある美しい街だ。



3年余りの生活で日米の違いを認識するさまざまな出来事をリアルに体験した。

まず人との出会い。離婚天国アメリカ、会話の中で

自然と耳にする「My ex (元夫／妻)」というフレーズ。状況にあった制度が整備されていた。多様なルーツ、趣向を持つ人々が生活。異人種間や同性カップル、アフリカ系の少年を養子に持つ白人高齢夫婦…、多様性の次元が違ふ。市民権を持ち現地に住む人も大半は移住者。彼らに加えて、中国、台湾、

韓国、タイ、独、伊、ベネズエラ…の留学生らとの交流は、国民性、関心事、価値観等、私これまで持っていたステレオタイプな捉え方とのギャップを認識させてくれた。

SFでの生活拠点の立ち上げ。米国生活に不可欠なソーシャル・セキュリティ・ナンバーと加州ドライバーズライセンスの取得、住居賃貸契約、車の購入、自動車保険、結核予防接

## MYサンフランシスコ

——菅 伸彦——

苦難の連続。日本でも最近厳しいようだが、ある課題のペーパーの数が担当教官の剽窃チェックソフトによる指摘を受け、期限間際に再提出。浪花節は通じない。各履修科目終了後、担当教官の仕事ぶりを受講者が採点。スコアが低く契約更新されない教官も。米国のシビアな一端を知った。

SFで特によかったことは二つ。人種のウェルミックス。居

住人種のバランスがよく、アジア系への差別的な視線は少ない。二

種…。スマホもない中、知人の助けも借りたが「直営」で対処。スムーズに行かないことばかり。日本のような至れり尽くせりなどはない。自ら動く意識とストレス耐性が高まった。

キャンパスライフ。敬称の呪

縛から解放されたファーストネームで呼び合える文化は心地よい。一方、シラバスに沿ったレポート課題の提出やプレゼンは

つ目は気候。季節による温度変化が少ない地中海性気候、5〜10月はほぼ降雨なし。寒流の影響で夏の平均最高気温が21℃。青空と霧が交錯し、一日の中に四季がある。年間通して動きたくなる。

難点は、チップの習慣、路上駐車し難い、日本のコンビニとシャワートイレがないことだ。(オリジナル設計社長)